

Coleman 

Coleman® Lantern 取扱説明書



Two Mantle

Model 288A

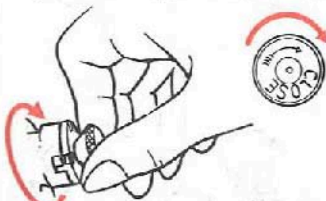
1 燃料を入れる

必ずアウトドア(屋外)の火気のない所で行ってください。

- ①燃料バルブを「OFF」にセットする。



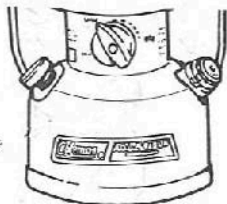
- ②ポンプノブを、右に止まるまでまわす。



- ③燃料キャップをはずす。



- ④ランタンを水平に置いて、注入口からあふれない位に燃料を入れる。

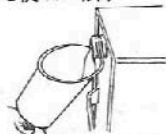


- ⑤燃料キャップを、固めにしめる。

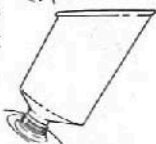
燃料満タンの目安

フューエルファネルを使った場合

- ①ランタンを水平に置いて燃料を入れる。



- ②フューエルファネルから、タンク内に入らなくなったら、注入をストップ。

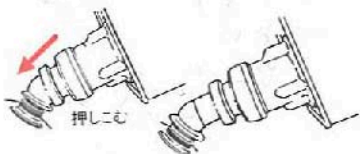


- ③ファネルを少し持ちあげると、ファネル内に残った燃料はタンク内に入り、ちょうど満タンの量になる。



ガソリンフィルターを使った場合

- ①ランタンを水平に置き、ガソリンフィルターは正確に押しこみ燃料を入れる。



- ②缶から燃料が入らなくなったら、注入をストップ。ちょうど満タンの量になる。

2 マントルをつける

必ず、コールマン純正マントルをご使用ください。

① ボールナットをはずす。

ボールナット



② ベンチレーターをはずす。



ベンチレーター

③ ガラスグローブを抜きとる。



ガラスグローブ

④ あらかじめ、指先にて袋状にふくらませる。



⑤ ひもを二重に仮結びする。



⑥ バーナーチューブ先端の、正しい位置に取りつける。



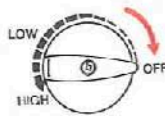
⑦ しわが均等になるように繫えて、余ったひもは切りとる。



3 ポンピング

燃料タンク内に空気圧を加えます。

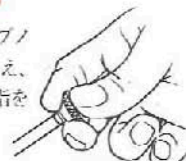
① 燃料バルブを「OFF」にセットする。



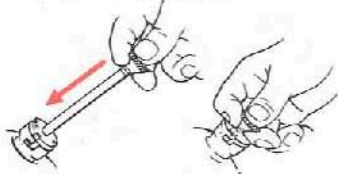
② ポンプノブを、左に2回転させる。



③ 親指で、ポンプノブの穴を押さえ、人差し指と中指を添える。



④ 手前に引いて、奥まで押しこむ正確なストロークを繰り返す。



⑤ 40～50回以上ポンピングし、固くなって指の力で入らなくなったら、ノブを押しこんで右に止まるまでまわす。



ポンピング操作上の注意

ポンプカップの乾燥

ポンプカップが乾燥していると、ポンピングしてもひっかかる感じや軽すぎる感じで、空気が入らない。ポンプキャップの「OIL」と表示のある穴から、リユベリカントを2～3滴注入する。



リユベリカント

ポンプカップ専用特殊オイル。

乾燥した状態で、無理にポンピングすると、ポンプカップがめくれるなど、破損の原因となる。



ポンピングは正確にポンプフランジャーと平行になるよう、正しくストロークする。力を入れ過ぎて、間違った方向に押すと、エアーステムを曲げるなど、故障の原因となる。



4 カラヤキをする

点火の前に燃やして灰状にします。

取りつけたマントルは、点火前に燃料を出さないで燃やし、灰状にする。これをカラヤキという。

①取りつけたマントルは、約7.5cmの長さ。

②マントル下部から均等に火をつけて、完全に灰状になるまで燃やす。



③カラヤキしたマントルは、約5cmに縮んで小さくなるが、点火すると丸みを帯びた形にふくらみ、形状を保つ強度がでる。

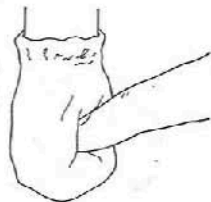


カンヤキ後

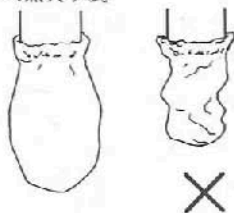
点火後

カラヤキ時の注意

カラヤキしたマントルは、もろくなり強い衝撃や指先でも簡単に破損する。



カラヤキの途中や、カラヤキしないで点火すると、縮みが激しく、いびつな形状で小さくなる。必ず、完全にカラヤキしてから点火する。



片寄ったカラヤキは、マントル破損の原因になる。下部から均等に火をつける。

マントルは消耗品です。常時、予備のマントルをご用意ください。

5 点火

点火時の注意

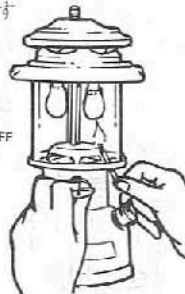
①燃料バルブを「LOW」にセット。空気の出るシューという音から、燃料の出るジッジツという音に変わるまで待つ。



②燃料の出る音が変わったら、燃料バルブを「OFF」にもどし、しばらく待つ。



③フレーム底部の穴から、柄の長いライターなどの火を入れ、燃料バルブを「HIGH」にセットすると点火する。



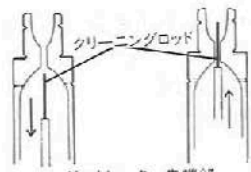
④点火直後、更に充分ポンピングする。
⑤明るさの調節は燃料バルブで。



炎は上にあがるので、点火するときには、ランタンの上にかがみこまない。

マントル以外から炎が出る場合は、燃料の出すぎが燃料漏れの原因。燃料バルブを「OFF」にもどし消火後、再度取扱説明書をよく読んで、正しい手順で点火操作を行う。

正確な操作で点火しても、ついやり消えたりして安定しない場合は、燃料バルブを「OFF」と「HIGH」の間で、素早く2～3回往復させる。ジェネレーター内部のクリーニングロッドが上下し、ジェネレーター先端の小さな穴を掃除して、燃料の通りをよくし、すぐに安定した炎に変わる。



ジェネレーター先端部

6 消火

- ①燃料バルブを「OFF」にセットする。

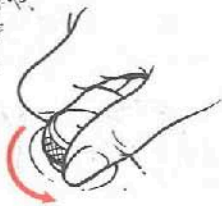


ジェネレーター内部に残っているガスがなくなるまで燃えるが、しばらくすると消える。

7 収納・保管

- ①ランタン本体が完全に冷えてから、プラスチックケースに入れる。

- ②燃料の入った状態で、車のトランクなどで運ぶ時や、使用後に保管する場合は空気を抜く。



- ③燃料を入れた状態で、長期間放置すると、タンク内の錆どめ効果が薄れ、錆びることがあるので、シーズンオフなど長期間保管する場合は、燃料を完全に使いきって、タンク内を空にする。

- ④ガラスグローブを破損して持ち運ぶ時は、ダンボールなどの厚紙をまいて、バーナー部を保護する。



- ⑤幼時、子供の手の届く所に保管しない。

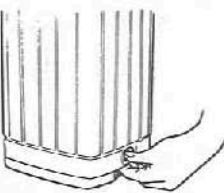
プラスチックケースの取扱方法

取り出し収納とも、両手で左右同時に行う。

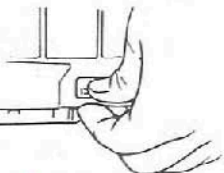
- ②ふたの凸部に、ボールナットが入るようにかぶせる。

取り出し方

- ①両手の親指を底部のロック用の爪に当て、人差し指と中指をふたの縁に添える。

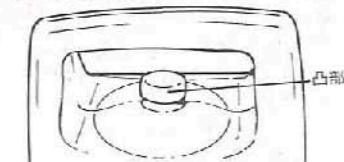
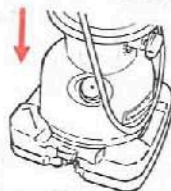


- ②ふたを外側に広げるようにして、ロックをはずす。

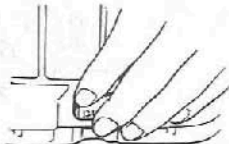


収納方法

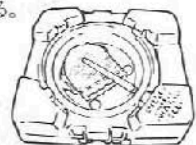
- ①ランタンを底のくぼみに、しっかり固定する。



- ③ふたにあるロック用の穴を、底部の爪に合わせ、穴の下の線を両手の人差し指で内側に押しこみ、ロックする。



ケースの底部のくぼみは、マントルやジェネレーターなど、予備のパーツを収納できる。



チェックバルブ機能の点検

ポンピング操作直後に点検する。ポンプノブ先端の穴から燃料が出る場合は、チェックバルブ機能不良。空気圧を抜いて修理に出す。ポンプノブ先端の穴にマッチなどの火を近づける。穴に火がつく場合は、チェックバルブ機能不良。チェックバルブの交換には、専用工具が必要。お買い求めの販売店にご依頼ください。

8メンテナンス

ジェネレーター交換の手順

点火しにくい。いつもよりくらい。「HIGH」「LOW」の調節ができなくなった。このような場合は、ジェネレーターを交換してください。

- ①燃料バルブを「OFF」にセットし、燃料キャップを緩め、タンク内の空気を抜く。
- ②ボルトナットをはずす。
- ③ベンチレーターをはずす。
- ④ガラスグロブを抜く。

以上8頁の図を参照

- ⑤ヒートシールドをはずす。

ヒートシールド



- ⑥フレームナットをゆるめる。

フレームナット



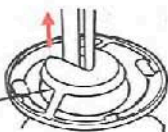
- ⑦Uクリップを取りはずす。

Uクリップ



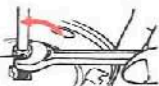
- ⑧バーナー一式を抜く。

バーナー一式



- ⑨ジャムナットをはずす。

ジャムナット



- ⑩ジェネレーターを持ちあげ、クリーニングロッドをはずす。



- ⑪新しいジェネレーターのクリーニングロッドを、約1cm引き出しバルブ先端の穴に引っかける。



- ⑫燃料バルブを「HIGH」にしてクリーニングロッドを下げた状態にする。
- ⑬クリーニングロッドを曲げないように、ジェネレーターを下に降ろす。
- ⑭ジェムナットを、しっかり締める。
- ⑮8~1の手順で組み立てて、交換完了。

▲ 交換後点火操作を行い、燃料漏れがないか確認する。

ジェネレーターは消耗品です。常時、予備のジェネレーターをご用意ください。

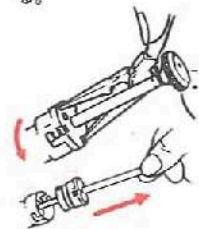
ポンプカップ交換の手順

▲ ポンプカップが破損、損傷または外れたときは、ポンピングしても空気が入りません。ポンプカップを交換するか再度組立て直してください。

- ①ポンプノブを左に10回転以上回し、チェックバルブからエアーステムをはずす。



- ②ラジオペンチなどで、ポンプキャップを左にまわし、ポンプノブを抜く。



- ③ポンプカップを固定している、プッシュオンナットをはずし、損傷したポンプカップを取りのぞく。



ポンプブランジャーの組立て方法

▲ ポンプカップが外れてしまった場合は、ポンプキャップを外すと中にエアーステム、白いプラスチック板、ポンプカップ、プッシュオンナットがシリンダー内に残っているはずですので、それを取り出す。エアーステムは左に10回転以上回すと取れます。

ポンプキャップ、白いプラスチック板(向きに注意)、ポンプカップ、プッシュオンナットの順で組み立て、固定する。



- ④ポンプカップにリュブリカント(専用特殊オイル)をつけ、エアーステムをポンプブランジャーの中に入れ、ポンプノブをセットする。



- ⑤ポンプキャップを固定する。



- ⑥ポンプノブを右に止まるまでまわして、交換完了。



▲ ②の段階で、エアーステムに曲がりがないか確認し、変形していたら交換する。

▲ エアーステムが曲がっていると、ポンピング操作が固くなり、チェックバルブ破損の原因になる。

ポンプカップ
プッシュオンナット

エアーステム

ポンプ
キャップ

常時、ポンプリペアキットの携行をお勧めします。